

続・小松君の闘い

‘To sin by silence when we should protest  
makes cowards out of men’

—Ella Wheeler Wilcox

あきつ 15 回ホームページに「小松君の闘い」が掲載された後、  
小松君から途切れ途切れにメールが送られてきた。  
研究も職も捨て人生を賭けての告発、相当な決意と勇気がいったことと思う。  
当時が思い出されておそらく感情が昂ぶったのだろう、一度にまとめては言い尽くせない  
様子が文面からもメールの送り方からもありありと分かってしまう。

福殿

世話になったな！

ありがとう。

この騒ぎで危険微生物がらみのリスク管理が 20 年がほど進んだ・・・  
というのが専門家らの評価だった

(日本は放射能にはえらく煩いが病原菌に対しては歴史的に大甘)。

あっちに行った時、伯父や親父らに

「下でなんかましなことをやってきたか？」

と聞かれた時の土産話ができたかな？

ママによろしく。

福殿

2007年10月17日

「朝日新聞」記事を見ても家族は誰も俺のこととなぞとは分かる由もない。

それまでは家族・友人・・・誰にも一言も喋ってなかったからな。

喋ると臍から力が抜けるような気がするし、いらざらん心配もかけたくないし。

ところが他社がぞろぞろ「落穂ひろい」的取材に来て隠し通せず漸く真相を話した。

福殿

長い闘争中涙腺に蓋をしてきた。

(親父の事故死以来か?)

最近少し緩んできたかも？

とにかくありがとう！

スクープ直後、経済産業委員会で増子輝彦議員が産総研担当理事らを召喚し、  
質問主意書以上にきびしく締め上げてる動画を見た時も・・・少し緩んだがな！

「小松君の闘い」を投稿する前に小野先生に私の原稿を読んでいただいた。  
小野先生からの返事メール。

何たることだ！

小松くんのこと断片的に聞いていました。

ケンカの相手は研究所の上司かなと思っていました。

産業総合研究所の事件がインターネットで調べることができると期待して、

少し調べてみたが、谷氏の質問主意書はすぐ見つかったが、

それ以外はスパイがらみの話しか見つかりませんでした。

小松くん、私には真似のできないヤツだと思ってました。

小松くんの叔父さんで小学校の先生だった人の、

昭和5～6年ころの「長野県教員赤化事件」での対処の仕方も、

小松くんの対処の仕方も共通点があるのかと思っています。

小松くんから柿が届きました。 2023. 11. 14.

土屋進君もそうだったのだが、小松君も同じで、

二人とも昔から役人にしておくのがもったいないくらいの骨っぽさがあった。

自分の仕事や研究に誇りと自信を持っていればこそ、たとえ相手が巨大な組織であろうとも「抗議すべき時に沈黙する卑怯者」にはなれなかったということだろう。

「我が土建行政に悔いなし」

と言っていた土屋進君のかつての先輩だった方が我が家で酒を飲みながら・・

彼にはいつもハラハラさせられどうしでしたよ、彼は政治家なんて議員でも大臣でも自分の操り人形くらいにしか考えてなかったなあ、でも彼には彼の道理がある、誇りもある、政治家どもは彼に従いましたよ、まあ型破りの役人でしたよね。

土屋君は彼の道理を受け入れてくれた良き環境に恵まれ真っすぐな道を歩むことができ、そうでない小松君は貧乏くじを引いたということだろうか。

(類は友を呼ぶ・・田中角栄のオーラか背後霊が建設省北陸建設局長時代の土屋君には乗り移っていたのかも・・蒲原沢の土石流さえなければと悔やまれる・・本省に戻ってさえいれば国交省や建設行政も少しはましなものになっていたのかもしれない・・)

12月17日、土屋進君の命日が巡ってくる、69歳、道半ばでの逝去が悼まれる。

自分のリスクを顧みず闘った小松君にとっては

「危険病原菌がらみのリスク管理」

が一步前進したことが唯一の勝利で慰めになるのではないか。

「当然のことをしたまでだろう！！」と口角泡を飛ばす土屋君の顔が目浮かぶ・・

2023. 11. 30. 福島資剛